



「Never too late!」

校長 内山 茂



11月7日(土)に創立50周年記念式典・講演・祝賀会、翌8日(日)に記念文化祭を執り行った。いずれも創立50周年の節目を飾るにふさわしい内容で、御来賓・卒業生・保護者、そして地域の方々等、多くの皆様から称賛の言葉をいただいた。

ところで、記念講演では、本校卒業生(平成5年3月卒)で、来季の読売巨人軍1軍バッテリーコーチに就任が決定されている村田善則さんの話を聞くことができた。翌日の仕事(世界野球プレミア12・日本対韓国戦)の関係で短い時間であったが、心に響く貴重な話をいただいた。

特に、印象に残っているのが「Never too late!(遅すぎることはない。諦めるな!)」という言葉である。村田さんがケガや不調で悩んでいる時かけられた言葉だそう。この言葉で村田さんは勇気を得て立ち直り、16年間、巨人軍捕手として活躍することができたということであった。

村田さんは、これからバッテリーコーチという要職にあって、ますます多忙で、責任重大になられると思うが、「Never too late!」の精神で乗り切っていられることだろう。今後の御活躍をお祈りするとともに、私たちも、苦しい時や辛い時にこの言葉を思い起こし、苦難に立ち向かっていきたいものである。

第11回 私学振興大会 — 長崎県の子どものための明るい未来のために

10月28日(水)、西海橋経由と彼杵経由の2台のマイクロバスを利用し、ランチバイキングをとったあと、長崎で開催された「第11回私学振興大会」に保護者・教職員の計41名が参加しました。本大会の趣旨である、公私間格差の是正を唱える決議文を、長崎県副知事 濱本磨毅様へ受け取っていただきました。

また、俳優の石田純一さんの「希望は未来、夢は原動力」と題した講話がありました。スマイルFMのパーソナリティとのトークショー形式の講話で、保護者の皆様も楽しんでおられました。御多用の中、御参加いただきました保護者の皆様には、心からお礼申し上げます。



創立50周年記念式典を盛大に挙行



11月7日(土)に、本校体育館において創立50周年記念式典を挙行了しました。

当日は、来賓、旧教職員、同窓生、保護者、釜山電子工業高校及び生徒、教職員等、約800名が参加した式典になりました。

記念式典では、黙祷、国歌斉唱を行い、後藤理事長から、今後、本校の発展を祈念し、中国の故事から、事を完全に成就するための大事な最後の仕上げを意味する「画竜点睛」という言葉が贈られました。

後藤理事長が式辞を述べた後、中村県知事(代読：濱本副知事)、朝長市長から、それぞれ祝辞を賜りました。続いて、生徒代表決意のことば、校歌斉唱、最後に井手義則同窓会会長による万歳三唱で式典を締めくくりました。

記念式典に続き、本校卒業生で来季の読売巨人軍1軍バッテリーコーチである村田善則氏を講師に招き「わが野球人生」～佐実から巨人へ～と題した記念講演を開催しました。

村田善則氏からは、「何事も諦めることなく、頑張ってください」、「Never too late(始めるのに遅すぎることはない)」等のメッセージがありました。生徒たちにとっても、式典・講演をとおして、本校を新たに認識する機会になりました。ここに、生徒等の感想が寄せられていますので、その一部を掲載します。

- 記念式典では、創立50周年の節目の年に在校生であることに誇りを感じ、歴史と伝統を受け継ぐ者として身の引き締まる思いを強く感じました。(生徒)
- 在校生の皆さんと同窓生が一同に集まり、50周年にふさわしい式典でした。感動の1日をありがとうございました。(同窓生)
- 記念式典では、子どもたちが来賓の方々の祝辞に静かに耳を傾ける姿勢を見て、本校教育の素晴らしさに感心しました。50周年という意義ある年に巡り会えてありがたいです。(保護者)
- 講演の中で、怪我から復帰するまでの努力や、諦めることなく、チャレンジする精神力等、私たち同窓生にも勇気と希望をいただきました。同窓生として誇りに思います。(同窓生)
- 同窓生の講演ということもあり、親近感を感じながらお話をお聞きすることができました。不撓不屈の精神で乗り越えてきたことや、今を一生懸命に生きることなど、子どもたちは大切なものを感じ取ったことと思います。(保護者)

